

### 本時の見どころ

玉東町は、西南戦争の激戦地の1つであり、それに関する史跡や資料が残されています。本授業では、それらを活用して当時の玉東町の状況やそこで生活していた人々の思いを考えをめぐらせ、西南戦争が玉東町にとってどのような戦争であったのかを考えます。郷土史から歴史的事象の特色を掴み、同時に郷土史に対する関心を高め、郷土愛を深めることをねらいとしています。

## 社会科（歴史的分野）学習指導案

日時 平成27年11月25日（水）第1校時  
場所 玉東町立玉東中学校2年1組教室  
年組 玉東町立玉東中学校2年1組  
男子13名 女子15名 計28名  
指導者 玉東町立玉東中学校 教諭 小山忠仁

### 1 単元名 「明治維新」（東京書籍 p 146～159）

### 2 単元について

#### (1) 単元観

1867年の江戸幕府が国を治める役割を朝廷に返す、いわゆる大政奉還が行われ、その後の戊辰戦争を経て薩摩、長州、土佐、肥前などの人々を中心に新たな政府である明治政府が作られた。

明治政府はそれまでの藩を中心とした政治体制から、天皇を中心とした中央集権の体制を確立するために、版籍奉還や廃藩置県を断行した。更に、不平等条約を改正するためには欧米列強の国々に負けない国を作り出すことが必要であると考え「富国強兵」のスローガンの下、学制や徴兵令、地租改正などの様々な改革を実施し、また、同時に西洋からの文化も積極的に取り入れていった。

しかし、旧藩閥の対立や政争が繰り返され、汚職などがはこびり、新政府の体制は決して安定したものではなかった。また、改革の中には、徴兵令や廃刀令、秩禄処分などそれまでの支配階層であった士族（武士）の特権を奪うものもあり、士族の存在意義が失われるものであった。このようなことから、士族内部には明治政府への不満が高まっていき、明治六年の政変を契機として、佐賀の乱、そして、秩禄処分の後に、神風連の乱、秋月の乱、萩の乱といった士族の反乱が全国各地で起きるようになった。

その反乱の最後の、もっとも大きなものが西南戦争である。西南戦争は明治政府の参議となり、陸軍大将を兼ねていた西郷隆盛を、薩摩藩を中心とした士族達が担ぎ出して起こした日本の歴史上最後の内乱である。西南戦争の戦場は鹿児島、宮崎、熊本、大分の各県に広がっていたが、その中でも、植木と玉東町を中心とした地域は、戦争の初期に士族の軍隊と徴兵令によって集められた人々で構成された政府の軍隊が正面からぶつかり合った場所であり、その史跡は西南戦争の歴史的な性格を振り返る事が出来る。

西南戦争では九州各地の旧藩の士族が呼応し、総勢三万人の士族が戦いに参加した。この戦いで薩摩を中心とした士族たちが敗れることによって、十二世紀以来続いてきた武士の時代は終わったともいえる。しかし、旧士族はその後にも自由民権運動や国会の開設に貢献するなど、言論による政治参加の波を世の中に広げていった。また、西南戦争は軍備や産業の近代化の加速化に弾みをつけるなど、国民国家・近代国家の成立に大きく影響を及ぼした。

このように、西南戦争について地元に残された史跡から学んだり考えたりする事は、歴史の流れを身近なものとして捉えることができ、これからの社会への参加・参画を考える力を育むことができると考える。

#### 【研究テーマとの関連：教材選択の条件】

玉東町には西南戦争の激戦を振り返る事ができる史跡や言い伝えが多く残っている。これらを活用して西南戦争の学習を進めることにより、当時の状況や人々の様子や思いを考えることができ、それらと関連づけながら日本の近代国家への歩みを具体的に捉えることができる。このようなことから、玉東町に残された史跡や言い伝えは、「具体性」のある教材になるといえる。

また、授業において、郷土史についても扱われるものの、日本の歴史の流れと郷土の歴史の流れの関連性について考える機会は少ない。そのため、西南戦争の史跡を取り上げた授業をすることで、玉東町がかつて日本の歴史の大きな転換期に関わりのあった場所の1つであった事実を認識させることで、歴史に対する関心を高め、郷土に対する誇

りを育てることができるという玉東町ならでわの教材ということからも「意外性」のある教材であるといえる。

(2) 系統観

小学校 6 年生	中学校 2 年生 (歴史的分野)	中学校 3 年生 (公民的分野)
近代国家への歩み ・江戸幕府がたおれる ・新しい政府をつくる ・西洋においっけ ・人々の暮らしが変わった ・自由民権運動が広まる ・国会が開かれる	第 5 章 開国と近代日本の歩み 2 節 明治維新 ・新政府の成立 ・明治維新の三大改革 ・世界とつながる日本と文明開化 ・岩倉使節団と殖産興業 ・近代的な国際関係 ・自由民権運動の高まり ・立憲制国家の成立	第 5 章 地球社会とわたしたち 1 節 国際社会と世界平和 2 節 国際問題とわたしたち

(3) 生徒観 (男子 13 名、女子 15 名)

本学級の生徒は、学習に対する意欲が高い生徒が多く、授業にも真剣な態度で参加する。全体的に仲も良く、お互いに教え合うこともできる。事前にとったアンケートの結果は次の通りである。

質 問 項 目	結 果
次の言葉について知っていますか。	<b>【西郷隆盛】</b> 説明できる (9) 名前知っている (19) 全く知らない (0) 読めない (0) <b>【板垣退助】</b> 説明できる (2) 名前知っている (21) 全く知らない (4) 読めない (1) <b>【吉次峠】</b> 説明できる (2) 名前知っている (14) 全く知らない (10) 読めない (2) <b>【横平山】</b> 説明できる (1) 名前知っている (12) 全く知らない (12) 読めない (3) <b>【博愛社】</b> 説明できる (2) 名前知っている (14) 全く知らない (9) 読めない (3) <b>【高月官軍墓地】</b> 説明できる (3) 名前知っている (16) 全く知らない (8) 読めない (1) <b>【薩軍三銃士の墓】</b> 説明できる (0) 名前知っている (7) 全く知らない (18) 読めない (3)
西南戦争の時、玉東町でどのような戦いがあったか知っていますか。	はい (1) ・駅前などにあった絵のような戦いがあった。 いいえ (27)
玉東町を「誇り」に思えることはありますか。	はい (21) * 西南戦争関係について答えた生徒 (1) いいえ (7)

以上の結果から、玉東町における西南戦争の状況、人々の動き、あるいは玉東町に残っている史跡などについて、具体的に説明できる生徒がほとんどいない。そのため、玉東町における西南戦争の状況についてしっかり認識させ、その影響について考えさせることで、本単元の課題に近づいていきたい。

(4) 指導観

生徒の実態に応じて、次のように指導を進める。

- ・生徒が安心して学習を進めることができるように、教科横断的な学習基盤に基づいて学習を進める。
- ・西南戦争の様子をイメージしやすくするために ICT 機器を活用する。
- ・玉東町に残された西南戦争に関連する事項を中心に扱い、当時の玉東町の状況や人々の思いをイメージできるような資料を準備する。また、互いに意見を交換することで、それぞれの考えを深めることができるような言語活動を取り入れる。

### 3 単元の目標

社会的事象への関心・意欲・態度	明治維新による近代国家の形成と我が国の国際的地位の向上、近代文化の形成など、近代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追求して近代の特色をとらえさせる。
社会的な思考力・判断力・表現力	新政府による改革の特色について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現させる。
資料活用の技能	明治時代になり人々の生活が大きく変化したことや、自由民権運動、憲法の制定について、適切な資料から読み取らせ、まとめさせる。
社会的事象についての知識・理解	明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、また、憲法に基づいて議会政治が始まり、立憲制国家が成立したことを理解させ、その知識を身につけさせる。

### 4 単元の指導計画及び評価（基準）計画（全9時間、本時7／9）

次	時	学 習 活 動	評 価
1	1	「新政府の成立」 ○ 版籍奉還や廃藩置県の内容と目的について理解する。 ○ 身分制度の廃止の影響について考える。	○ 新政府ができ、中央集権国家の体制が確立していったことを理解し、その知識を身につけている。（学習シート） 【知識・理解】
単元を貫く課題「日本の近代国家はどのような歩みで形成されたのだろうか？」			
2	1	「明治維新の三大改革」 ○ 富国強兵政策の具体的な内容を理解する。 ○ 改革が士族の生活にどのような影響をあたえたのか資料から考える。	○ 富国強兵政策の内容について様々な立場から考察し、その影響について考えることができる。（学習シート） 【思考・判断・表現】 ◇ 三大改革の時の玉東町の状況について資料から考え、まとめることができる。（学習シート） 【関心・意欲・態度】
3	1	「世界とつながる日本と文明開化」 ○ 欧米文化の流入により、人々の生活がどのように変化したのか、資料から考える。	○ 欧米の文化の流入によって、人々の生活が大きく変化したことを、資料を使い江戸時代と比較しながらまとめることができる。（学習シート）【技能】
4	1	「岩倉使節団と殖産興業」 ○ 岩倉使節団の目的と帰国後の影響について理解する。 ○ 北海道開拓における士族の役割について知る。	○ 岩倉使節団の目的と帰国後の影響について考え、政府がその後進めた政策を理解し、その知識を身につけている。（学習シート）【知識・理解】 ◇ 玉東町における、明治時代の産業の特色を知る。 【関心・意欲・態度】
5	1	「近代的な国際関係」 ○ 政府内で意見が対立し、征韓論を主張した人物等が政府から去ったことを理解する。 ○ 領土の画定に関して、政府が欧米諸	○ 明治六年の政変について、それぞれの立場の考えを比較し、それぞれの思いについて考える事ができる。（学習シート）

		<p>国やアジア諸国に対して行った外交政策を理解する。</p>	<p>【思考・判断・表現】 ○政府が欧米諸国やアジア諸国に対して行った外交政策を理解し、その知識を身につけている。 (学習シート) 【知識・理解】</p>
6	1	<p>「自由民権運動の高まり」 ～西南戦争について～ ○西南戦争が起きた原因やその影響について考える。</p>	<p>○西南戦争が起きることになった原因やその影響を資料から考え、表現することができる。 (学習シート) 【知識・理解】</p>
	1 (本時)	<p>「自由民権運動の高まり」 ～西南戦争と玉東町～ ○西南戦争時における、人々の思いについて考える。</p>	<p>◇資料をもとに西南戦争に対する玉東町の人々の思いについて考え、表現することができる。 (学習シート) 【思考・判断・表現】 ◇現代まで続く玉東町の人々の思いや動きについて自分の考えを表現し、郷土史に対する関心を高める。 【関心・意欲・態度】</p>
	1	<p>「自由民権運動の高まり」 ～自由民権運動の広がり～ ○自由民権運動が広まった影響を考える。</p>	<p>○自由民権運動が全国的に広まった過程を理解し、その知識を身につけることができる。 (学習シート) 【知識・理解】</p>
7	1	<p>「立憲制国家の成立」 ○政党の結成や憲法制定の過程を調べ、憲法の特徴を理解する。 ○憲法に基づいて議会政治が始まり、立憲国家が成立したことをとらえる。</p>	<p>○大日本帝国憲法の特徴や近代国家の基礎が整えられたことを理解し、その知識を身につけている。 (学習シート) 【知識・理解】 ◇大日本帝国憲法発布時の玉東町の様子について知る。(観察) 【関心・意欲・態度】</p>

## 5 本時の学習

### (1) 本時の目標

- ・玉東町での西南戦争の戦いにおける人々の思いの変化を考えることで、日本の近代国家の歩みは民衆の思いとは一致して進んだわけではないということを読み取り理解する。  
(社会的な思考・判断・表現)
- ・現代まで続く玉東町の人々の思いや動きについて知り、地域の歴史への関心を高める。  
(社会事象への関心・意欲・態度)

### (2) 本時の展開

過程	時間	学習過程	学習形態	教師の指導 ・予想される生徒の反応	教材 資料等	
導入	5	1 明治六年の政変で政界を去った二人の動きを知る。	一斉	○明治六年の政変についての知識の習得を確実に、西南戦争の原因について理解する。	I C T 機器	
展開	40	西南戦争は、玉東町の人々にとってどのような戦争だったのでしょうか？				
		2 玉東町における西南戦争の戦いについて知る。 3 西南戦争の時の玉東町の状況と人々の思いについて、資料から考える。	個人グループ	○横平山や吉次峠における戦いの激しさについて説明する  ○前時学習した西南戦争開始直前の玉東町の人々の思いを再確認する。 ○資料から考えたことをまとめさせる。 ・官軍にも薩軍にも使われて、期待していたような戦争ではなかった。	資料  評価① ワークシート	
		4 玉東町における西南戦争の状況より、日本の近代国家の歩みの特色を考える。  5 西南戦争時に玉東町の人々がとった、現代まで続く活動について知る。	一斉	○明治初期の様々な改革や玉東町における西南戦争の状況から、日本の近代国家の歩みの特色を考えさせる。 ・庶民の考えはあまり反映されていない。  ○博愛社や官軍・薩軍墓地について説明し、当時の玉東町の人々の行動が現代まで引き継がれていることを理解させる。 ○校歌の「誇り」に着目することで、郷土史を身近に感じられるようにする。	評価②	
まとめ	5	6 本時を振り返る。	個人	○めあてに対するまとめをする。	ワークシート	

### (3) 本時の評価

場面	評価基準
評価① (学習シート)	A: 西南戦争は人々が期待していたような戦争ではなかったということを当時の状況から考察し、当時の人々の思いの変化をふまえてまとめることができる。 B: 西南戦争は人々が期待していたような戦争ではなかったということを当時の状況から考察し、まとめることができる。
評価② (学習シート)	A: 西南戦争における玉東町の人々の行動が現代まで続いていることに対して、日本の近代国家の歩みと関連つけて自分の考えを表現できる。 B: 西南戦争における玉東町の人々の行動が現代まで続いていることに対して、自分の考えを表現できる。